

リーフレット作成の意図

平成 26 年度の外部評価委員会で、「事業内容の意図や目的は詳しく書かれているが、成果を具体的にわかりやすく示せていない」という指摘を受け、事業開始から 2 年が経過した今回のタイミングで、これまでの成果をなるべく具体的に提示することを試みた。入手可能なデータから、学修成果、学生の成長が分かるような切り口でのまとめを行い、今後の課題について外部評価委員会からのアドバイスを得ることを目標に外部評価委員会の資料として、リーフレットの編集を行った。平成 25・26 年度の外部評価委員会の資料となった「実施報告書」は、プロジェクトの活動を網羅的に詳細な記述を連ねたページ数の多い構成であったのに対し、今年度のリーフレットは全 26 ページに情報を選択的に掲載し、具体的なデータ（学生の言葉、アンケート調査の結果等の学習態度・行動データを含む）で学生の成長、教学体制のグローバル化を表現することを意図したものとした。

リーフレット作成についての議論

学生の学修成果のデータを取りまとめる過程で、どのようなデータを用いるか、分析やデータ提示の切り口をどこに置くか、結果を解釈し結論をどの程度まで明確に提示するかといった点に関して、多様な論点が見出された。数量的なデータ、質的なデータの双方について、現段階では結果の解釈の方法は一樣ではなく、情報の選択や提示のあり方によって、そこから導き出される成果や今後の課題の同定にも、多大な影響を与える可能性を現実のものとして再認識した。

プロジェクトメンバーの中から、データを提示するからには少なくとも何かの仮説を検討し、データから客観的に読み取れる内容を解釈し、それを基に仮説を評価した上で、資料に掲載して外部評価委員会の判断を仰ぐべきではないか、という意見があった。一方で、解釈はなるべく控えて、未加工のデータを提示して外部評価委員会の意見を仰いだ方がよい、という意見もだされた。また一方で、評価を受けるためのプロジェクトの実施報告では、客観的なデータを用いて弱点をさらすようなことは避けるべきであり、悪い結果を示すデータには、前向きな解釈を付すべきとの意見もあがった。

そこで、調査研究 PT では、本リーフレット作成の方針を以下のように定め、プロジェクトメンバーにメール上での承認をお願いした。(2016 年 1 月 12 日 8:04 グローバル化推進プロジェクト・メーリングリストに配信されたものから抜粋)

学生の自己評価データについて、GSC と GSC 以外の学生間に有意な差があるかの統計解析、あるいは、かれら一人一人の成績取得状況 (TOEIC や専門科目の成績など) と紐づけて解析する等、適切に解釈するための分析作業がまだ十分に行えていない。これは現時点での本取組の課題であると認識している。そのため、リーフレット上では現状の記述内容にとどめることが適切である。これは外部評価委員を真の「外部」ではなく、本事業を成功に導くための「仲間・身内」として位置づけているからこそ、取ることの出来る態度・方針であると認識している。今後、分析手法も含め調査研究 PT の事業最終年度の取組として検討

する。

リーフレットにある内容を通して、外部評価委員のみなさんが何をお感じになるかを伺いたい。一方で主に現場で学生とじかに接している事業メンバーの実感として、現データから前向きな成果の方向性が見えてきていることも事実である（リーフレット「おわりに」参照）。この点について、外部評価委員会開催までにある程度プロジェクト内で意見・指摘を集約・検討しておく。

紙面および目的の都合上リーフレットに記載のない、あるいは記載が限られている教学体制グローバル化の成果等については、親会議でも共有した一覧表をもとにした進捗説明および質疑応答を行う。タスク項目と説明担当者の対応表（誰が、あるいはどの子PTが説明を担当すると想定されるか）を、委員会開催までに周知連絡する予定である。時間的な制約上、全ての取組を網羅的に扱うことは困難と思われるため、本日举行う最終調整にて項目の絞り込みも行う予定である。

ただし、委員から事前あるいは、委員会の場で直に質問・照会があった分については優先的に扱うものとする。

外部評価委員会外秘

GISC

平成27年度 データで見る京都産業大学の

「グローバル社会で活躍する理系産業人育成」

経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援

外部評価委員会向け

Science

新たな

専門分野



自分の可能性

に目を瞑っていた

外部評価委員の皆様

本学のグローバル人材育成推進事業（本事業）の中核を担うグローバル・サイエンス・コース（GSC）が運用二年目となりました。今年度外部評価委員会の開催に先立ち、GSC 学生の学修成果データを主内容とするリーフレットをお届けします。本事業の目的「理系産業人の育成」を実現するために掲げた四つの柱、①対話能力、②主体性・積極性、③専門性、④アイデンティティの確立、を評価の観点としてデータを提示しました。

本事業の特色や課題を
見出して頂き、本事業最終年度
(2016年度)とそれ以降に向け
て注力すべき課題や継続すべき
取組等を協議したいと思います。

京都産業大学
グローバル化推進
プロジェクトチーム

Index 目次

※【】内は頁番号

●外部評価委員の皆様【1】

●目次【2】

●全体像【3～5】

本事業の特徴

基礎データ

グローバル・サイエンス・コース (GSC)/ イングリッシュ・キャリア専攻 (ECC)

●事業成果イメージマップ【6～7】

海外サイエンスキャンプ・英語サマーキャンプ学習成果

●対話能力 - 確かな言語力と異文化受容力を持つ若者 - に関する成果【8～13】

ポートフォリオの記述からみる「対話能力」学修成果

理系三学部における TOEIC スコア (入学時 Bridge+ 学年末・1月 IP) の推移

理系三学部における TOEIC スコア (任意・7月 IP+ 学年末・1月 IP) の推移

理系三学部における TOEIC スコア目標値達成者数の推移

外国語学部における TOEFL スコアの推移

理系三学部生の「対話能力」に関する自己評価の推移

対話能力に関する科目の履修状況

●主体性・積極性 - チャレンジ精神と主体性を持つ若者 - に関する成果【14～15】

ポートフォリオの記述からみる「主体性・積極性」学修成果

インターンシップ実績

理系三学部生の「主体性・積極性」に関する自己評価の推移

留学実績

●専門性 - 専門領域に関する確かな知見を持つ若者 - に関する成果【16～17】

ポートフォリオの記述からみる「専門性」学修成果

理系三学部生の「専門性」に関する自己評価の推移

●アイデンティティ - 自らの存在と母国に自信と誇りを持つ若者 - に関する成果【18～19】

ポートフォリオの記述からみる「アイデンティティ」学修成果

理系三学部生の「アイデンティティの確立」に関する自己評価の推移

アイデンティティの確立に関する科目の履修状況

●キャンパスのグローバル化 - 目指すべき人材像を育成する教学体制の構築 - 【20～23】

理系英語講義 FD の取組

高大接続 FD の取組

ラーニングコモンズ利用者数の推移

職員の英語力向上の取組

キャンパスのグローバル化にかかる本学専任職員の人材育成

専門職員の新たな登用制度

●おわりに【24】

Overview 全体像

●本事業の特徴●

「グローバル社会で活躍する理系産業人育成」の養成を目指し、次の四つの人材像を教育目標に掲げています。

- ①対話能力：確かな言語力と異文化受容力を持つ若者
- ②主体性・積極性：チャレンジ精神と主体性を持つ若者
- ③専門性：専門領域に関する確かな知見を持つ若者
- ④アイデンティティ確立：自らの存在と母国に自信と誇りを持つ若者

この実現に向けて2014年度から理系三学部を対象としたグローバル・サイエンス・コース（GSC）を開設し、現在運用二年目です。

グローバル社会で 活躍する理系産業人の育成

確かな言語力と異文化受容力を持つ若者
対話能力

チャレンジ精神と主体性を持つ若者
主体性・積極性

専門領域に関する確かな知見を持つ若者
専門性

自らの存在と母国に自信と誇りを持つ若者
アイデンティティの確立

キャンパスのグローバル化

目指すべき人材像を育成するための教学体制の構築

- 理系英語講義 FD
- 学習支援書としてのシラバス
- ナンバリング
- 高大接続
- データに基づく教学改革
- 職員の英語力向上
- 専任職員のグローバル化
- 専門職員の登用制度

Overview 全体像

●基礎データ●

本冊子では、本事業において、京都産業大学が「何に取り組んだか」ではなく、対象学生が「どのように成長しつつあるか」を振り返るため、以下のデータを参照しました。

表は、四つの人材像（本冊子においては評価項目）と参照したデータとの対応関係を示しています。

●がデータの使用を意味し、頁番号は、本冊子中のどの頁に当該データが掲載されているかを示しています。

参照データ	対話能力	主体性・積極性	専門性	アイデンティティ
語学力の検定試験 (TOEIC/TOEFL)の結果	● 9-11頁			
求める人材像に対する 自己評価アンケートの結果	● 12頁	● 16頁	● 18頁	● 21頁
履修登録データ	● 13頁	● 15頁		● 21頁
留学実績データ		● 17頁		
ラーニング・ポートフォリオ上の 学修成果の文章	● 8頁	● 14頁	● 18頁	● 20頁
海外サイエンスキャンプ・英語 サマーキャンプにおける 振り返りの文章	● 6頁	● 6頁	● 7頁	● 7頁

基礎統計

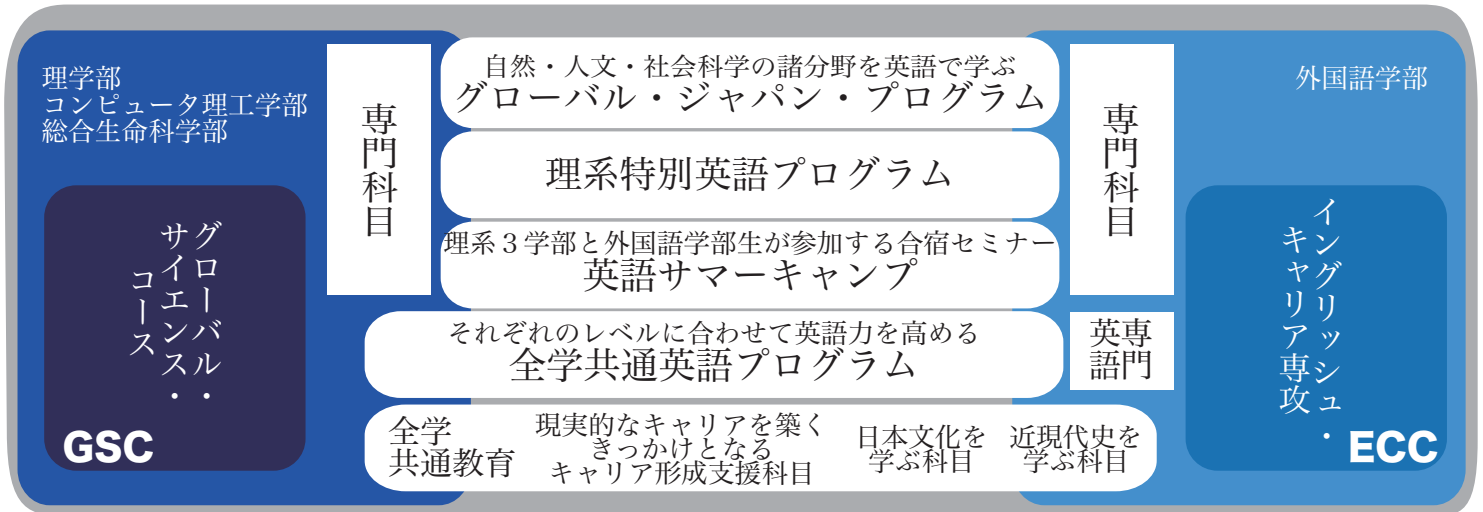
学部/コース	1年次	2年次	3年次	4年次	計
	2015年入学	2014年入学	2013年入学	2012年入学	
理学部	91	93	106	113	403
GSC	(14)	(21)	—	—	(35)
コンピュータ理工学部	166	150	143	173	632
GSC	(20)	(20)	—	—	(40)
総合生命科学部	122	107	130	137	496
GSC	(20)	(20)	—	—	(40)
外国語学部	551	562	459	552	2,124
英語学科	(141)	(130)	—	—	(271)
ECC	(25)	(40)	—	—	(65)
経済学部	662	598	629	766	2,655
経営学部	666	638	689	853	2,846
法学部	643	648	635	869	2,795
文化学部	285	214	214	264	977
8学部計	3,185	3,010	3,005	3,727	12,928

単位：人

表中 GSC はグローバル・サイエンス・コース
ECC はイングリッシュ・キャリア専攻
オレンジは事業対象学部、青は事業対象外学部

●グローバル・サイエンス・コース (GSC)/ イングリッシュ・キャリア専攻 (ECC)●

理系三学部と外国語学部が協働することにより、高い専門性とグローバル・コミュニケーション能力を兼ね備えた人材育成を目指しています。



●京都産業大学 (KSU) 英語プログラム●

本事業と連動させ、全学共通教育と外国語学部の英語科目を整理統合し、京都産業大学 (KSU) 英語プログラムとして下図のように体系化しています。



●本事業における対話能力測定 (TOEIC Bridge・TOEIC IP) スキーム●

右図は、TOEIC テストの実施時期と対象者をまとめたものです。●は、ほぼ全員受験しています。●は任意受験となり、●は受験者数が1桁となっています。□は TOEIC Bridge テスト、それ以外は TOEIC IP テストを実施しています。

薄い黄色の網掛けは、本冊子で集中して使用したデータです。

試験実施年月→ 入学年度↓	2013 年度			2014 年度			2015 年度			2016 年度		
	入学時	2013.7	2014.1	入学時	2013.7	2014.1	入学時	2013.7	2014.1	入学時	2013.7	2014.1
2010		●										
2011		●			●	●						
2012		●			●	●		●	●			
2013(GSC/ECC ゼロ期生)	□	●	●		●	●		●	●		●	●
2014(GSC/ECC 1 期生)				□	●	●		●	●		●	●
2014(GSC/ECC 2 期生)							□	●	●		●	●
2014(GSC/ECC 3 期生)										□	●	●

おわりに

どのようなデータが「理系産業人の育成」の四つの柱のそれぞれを評価・検証することに必要かつ有用なのか。本リーフレットには、この課題に対する取組の現状を示すという役割もあります。従前より取得・分析していた TOEIC スコアや海外留学者数といった量的データに加えて、今回は関連授業科目の履修状況、ポートフォリオ上での学生自身の記述内容、そしてアンケート調査による学生の自己評価の状況といった量的あるいは質的データを集計・整理し、学修成果の進捗状況をはかる物差しとして活用を試みました。その結果、従前の量的データが「学修の“結果”という成果」をあらわすのとは異なり、新たに取上げた各種データは「学修の“過程における学生の内面的な成長と行動の変化”という成果」をあらわしている、ということが明らかとなりました。本事業の取組は現時点において既に、その面において GSC や ECC の学生、そしてその周辺の学生に明らかな良い影響・成果をもたらしているという期待や確信が、学生と私たち実行メンバーの中に育まれつつあります。

京都産業大学
グローバル化推進
プロジェクトチーム

自分に合った
生き方

高み
を目指して



世界を
広げる

必要なのは
英語力だけじゃない

FECC



むすんで、うみだす。

京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY